

令和6年7月10日 下水道革新的技術実証事業評価委員会の結果について

令和6年度、令和5年度採択技術について評価結果を示す。

●令和6年度採択技術（追加公募）（実規模実証新規採択）

- 余剰汚泥からの高効率 MAP 回収システムに関する実証事業（月島 JFE アクアソリューション(株)・全国農業協同組合連合会福岡県本部・福岡市共同研究体）

提案された技術について、ライフサイクルコストの縮減や消費電力量の削減を目指して研究を実施していただきたい。なお、実証にあたり、従来技術からの優位性を明示することに留意してデータを取得すること。

●令和5年度採択技術（実規模実証1年目）

- 縦型密閉発酵槽による下水汚泥の肥料化技術に関する実証事業（(株)クボタ・UBE 三菱セメント(株)・中部エコテック(株)・島根県・日本下水道事業団共同研究体）

実証施設の設置が完了し、立ち上げ時のデータの取得も順調に進み、当初の目的に対して一定の成果が得られた。

今後は、四季変動を含めた通年運転データの取得による運転性能の把握、副原料の投入量、投入率を考慮した制御システムの最適化、肥料利用の適応可能性、排気ガス中の GHG の排出状況、脱臭性能の把握等が必要なことから、令和6年度も引き続きデータを蓄積し、研究を継続することが望ましい。